

## インド 農村に未来はないのか

須賀 努

コラムニスト・アジアウオッチャー

12億の人口を抱え、近い将来は中国を抜いて人口世界一になると言われている国、インド。生産基地として、また近年は消費市場としても世界の注目を集めているが、果たしてその実力や如何に。今回はインドの村に泊まってみて感じたことを紹介したい。

### インドの都市化

中国では近年最大の課題の1つは『農村の都市化』であろう。2億人以上が大都市に出稼ぎに出てそのまま住み着き、または流動人口となり、多くの農村が老人と子供だけの寒村へ。この出稼ぎ者を大都市から農村近郊の新都市へ移すこと、それが中国の都市化の背景の1つではないだろうか。実際には地方政府が自らの利権の為に乱開発を行い、誰も住まない街が出来ているところもあると言われており、その前途は多難ではある。

インドはどうであろうか。今回インド中部の文化都市プネーの郊外に宿泊する機会を得た。そこは20数年前から、農地を街に変えてきているという。確かにアパートが立ち並び、都市化が進んでいるように見えるが、その脇には薪を燃やして炊事をする風景あり、牛を飼ってミルクを絞るところもあり、ま



写真1 村で飼っている乳牛

た農地に農作物も残っている。中国に比べて開発のスピードは格段に遅いと言わざるを得ない。

当然ながらイン

ドは中国と違い、土地は個人の財産である。この一帯の大地主だった家を訪ねると『以前土地を売った資金でセメント業を始めた』という。これからは建設ラッシュと見込んだ投資だろう。目ざといなと思っていたが、『俺は金儲けにはあまり興味がない。最近はヨーガに凝っている』というではないか。ここに住む人々も急速な発展を望んでいる様子はない。

### 村社会の結びつき

村人はお互いをよく知っており、何かあると助け合う。宿泊先のご主人が心臓発作で倒れた時も村の人々が協力して、病院に担ぎ込んでくれたという。道で行きあうと声を掛けあい、一緒にヒンズーの神様に祈りを捧げる、そこには経済発展とは無縁の社会があるように見える。

そうは言っても人間社会だからめめ事は起こり、仲が悪くなる時もある。ある家で集まりがあるというので出掛けてみると、女性だけの集会だったが、その家の女主人が出席者全員に簡単なプレゼントを渡していた。実は1年に一度、仲が悪くなった人も含めて『水に流す』儀式なのだという。

いくら近代的なアパートが立ち並んでも、そこに住む人々の世界は昔のままだとしたら、急速な発展などになりはしないだろう。近所付き合いと宗教がある意味での抑止力になっている。これは決して悪いことではないように思われた。

因みに中国では前述の通り、農村から都市へ大量の住民が出稼ぎへ出たが、インドはちょっと事情が



#### 【須賀努氏のプロフィール】

東京外語大中国語科卒。  
金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。  
現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

撮影：佐渡多真子



異なるようで、出稼ぎに行く者はそれほど多くないという。その理由を尋ねると『この村の人間の殆どはヒンディー語が話せない』と。ヒンディー語はインドの公用語だが、英語はおろか公用語すら話せない人がインドの農村には大勢いる。彼らは方言だけで暮らしており、確かに言葉が通じなければ仕事にも制限がある。

中国では共産党が標準語の普及に力を入れ、それが結果として改革開放と相俟って、経済発展をもたらしたが、インドではそのような急速な発展は見込めないのではと思う。ただ農村でもテレビの普及などがあり、今の子供たちの世代になれば、事情が変わってくる可能性はある。

#### インドの結婚式

今回偶然にもインドの結婚式に出席する機会を得た。これもインド社会を理解する上でとても参考になった。ある意味でのインド発展の阻害要因として考えてみたい。新郎とその一族と共に訪れた新婦の住む街。この式場には300人を超える参列者がいたが、何とその殆どは同じ姓、要するに一族だったのである。

インドの結婚には従来恋愛結婚ではなく、一族内でカップリングするケースが普通だったという。もし自由に結婚しようとするれば、一族から離れることになり、インドではそのような流動人口は少ないという。特に女性の自由はかなり制限されており、最近現れた高学歴、高収入女性の一部で一族を離れる者が出てきているようだが、まだ殆どは縛られたままの状態だと思われる。

これは完全な村社会、血縁社会である。その一族

の掟に従う限り、一定の保護を受けるとたび離れば、何の保証もなくなるということ。インドはカースト社



写真2 インドの結婚式

会、と言われているが、そのカーストと血族が絡んで、ある意味で雁字搦めの社会が構成されてきた。結婚式は完全にその社会に若い二人を組み込むための儀式に過ぎない。

今後インド社会の変化を見ていくとき、表面的な問題だけではなく、このような血族の社会構造変化が重要になるように思う。中国のように文革を経て、比較的あっさり社会構造が変化し、発展を遂げた社会とは本質が異なるのではないか。

#### インドの発展は100年単位

人口が増えれば経済的な発展が見込まれる、とはよく言われることだが、インドのような社会においてもこれが当てはまるかどうか。ある日本人曰く『インドは発展すると思うが、それは100年単位で考えるべきこと。私が生きている内にもし急速な発展があれば大混乱に陥るのではないか』と。

またあるインド人学者は『インドの農村に未来はない』と言い切り、経済発展に農村人口を加えて考えるべきではないと警告する。まだまだ我々の勝手な尺度から言うと『寝た子』が沢山いるので、果たしてこれをたたき起こして経済に組み込むことが幸せなのか、インドでは考えさせられることが多い。